

ソントン・ドノヴァン校（TD校）生徒短期留学（1日目）

～広島空港到着～

6月19日（木）、アメリカ合衆国ニューヨーク州にある姉妹校、ソントン・ドノヴァン校（TD校）から、生徒3名と引率教員1名が広島空港に到着されました。

到着時には、ホストファミリーの皆様をはじめ、NPO世羅国際交流教育ネットワークの方々、本校の生徒たちが出迎えに駆けつけ、アメリカの国旗やプラカードを掲げて温かく歓迎しました。

平野校長先生より歓迎のご挨拶

「世羅や広島でたくさんのアクティビティを満喫してください。私たち世羅高校も皆さんが素敵な経験を得ることできるよう努めてまいります。」

NPO世羅国際交流教育ネットワーク会長・上野悟様よりご挨拶

「日本での滞在は、きっと素晴らしい経験になるでしょう。世羅を十分に満喫してください。」

TD校 引率教員ピッツ先生より日本語でのご挨拶

「このプログラムを計画してくださった関係者の皆さん、そして生徒を受け入れてくださったホストファミリーの皆様には心から感謝申し上げます。TD校の生徒も積極的に行動すると思うので、世羅高校のみなさんがオープンマインドで温かく迎えてくだされば幸いです。よろしくお願いいたします。」

TD校の生徒たちは、7月2日（水）まで日本に滞在予定です。滞在中の様子は、今後も本校ホームページにて随時紹介してまいります。ぜひご覧ください。



ホストファミリーとの対面



全員での集合写真



歓迎の握手の様子

ソートン・ドノヴァン校（TD校）生徒短期留学（Day 2）

～駅伝・長距離走の聖地・修善院を訪問～

6月20日（金）、前日22時前の広島空港到着の疲れを見せず、ドノヴァン生徒は、職員朝会において、本校職員にむけての自己紹介をし、今年度の短期留学が始まりました。

その後、本校の北に位置する修善院に徒歩で移動しました。途上、ドノヴァン校の生徒は、農地が住宅に隣接する風景を目にし、アメリカでは市街地と郊外とが明確に区別され、農地と人の居住地は明確に区別されるので、その違いに驚いたとのことでした。

9時に到着した修善院では、神田敬州住職が出迎えてくださいました。修善院の庭は、室町時代の枯山水庭の形式に倣って作庭されたものであり、その意匠についての説明がありました。見る位置や角度によって、置かれた石の数が異なって見えること、修善院の枯山水庭のビューアースポット（最も庭が美しく見える位置）は、西から真東に向いた方角で、その方角は、京都や比叡山、富士山、箱根山、鎌倉等の位置と一直線に合致。それは国土を国家と云う名の人体に見立てて造営した風水思想に依拠するとの説明がありました。

枯山水の庭は、その庭の外周を含まない抽象化された内側全てを指すことから、限られた空間に、果てしなく無限の宇宙を示すよう表現されており、深山幽谷山紫水明の自然の妙を凝縮しているという説明がありました。

その後、場所を本堂に移し、神田住職が本校陸上競技部のOBでもあり、毎年、11月初旬に修善院において本校陸上競技部員らを対象としたアスリートのシューズの「供養祭」を営まれていることから、本校陸上競技部創設等に関する話をしてくださいました。

まずは、戦後、初代駅伝監督・内海富貴郎先生が戦地から体育教師として帰還・復員され、本校陸上競技部の礎を築かれたことを説かれました。内海先生は、終戦直後の物資の乏しい状況下、靴以外の道具を必要としない長距離走を体育の授業の主軸として設定され、生徒に走ることに興味を抱かせるよう駅伝形式を導入。無意味な根性論や理不尽な特訓を排し、科学的かつ効率的な練習を徹底的に研究するなどの工夫を重ね、全国高校駅伝競走大会の第1回、第2回大会を連続制覇。こうした歴史的経緯と、逆境を克服する部訓から本校陸上競技部は世界の陸上関係者から「高校駅伝のルーツ」と称讃されているとの説明をされました。

その後、修善院に収蔵されている世界のトップアスリートたちの奉納シューズについてのお話をしてくださいました。メキシコ五輪マラソン銀メダリスト君原健二選手を始め、シドニー五輪マラソン金メダリスト高橋尚子選手など、著名な陸上選手のシューズをその選手の活躍された時代に沿って、解説していただきました。神田住職は実際にシューズを手にとって、靴底のすり減り方から見えてくる長距離走の走法の変遷について説明をして下さいました。

君原選手を始め、20世紀頃までの多くの長距離選手の走法は、もともと踵着地が一般的でありましたが、21世紀に入るとスピードの向上とともに、高橋尚子選手の時代は靴底全面で着地する走り方となり、その後、さらにアテネ五輪金メダリスト野口みづき選手をはじめ、現在の世界トップレベルの選手になるとフォアフット（爪先着地）へと進化している旨の説明をされました。

ドノヴァン校の生徒たちは、奉納シューズに添えられているレース中の写真からもその説明は「なるほど!」と大きくうなずく反応を見せたり、実際に足を動かしたりして、踵着地、爪先着地を試してみるなど、熱心に話に聴き入っていました。

なお、修善院に収蔵されている世界のトップアスリートの奉納シューズは世界的にも極めて貴重なものであり、長距離走の研究を専門とする科学者や研究者による調査訪問が後を絶たないとのことでした。

神田住職によるお話は、世羅の基層となる文化や本校の陸上競技部の歴史を学ぶ貴重な機会となりました。



ソートン・ドノヴァン校（TD校）生徒短期留学（Day 2）

～生け花体験～

6月20日（金）、華道家元池坊（いけのぼう）の毛利先生にお越しいただき、TDの生徒たちが生け花体験をしました。

生け花のルーツを御講話いただき、今の時期に咲く日本のお花の紹介や、道具の取り扱い方を教えていただきました。剣山や、生け花用のはさみを使用したことがないTDの生徒でしたが、上手にはさみを取り扱い、丁寧にお花を挿し、とてもきれいに生けられていました。

「少し切るだけで、雰囲気が変わるところが面白かった。」「とても平和的な経験ができました。お花も美しい、その美しいお花を見る人の事も考えながら生ける事はとても楽しかったです。」とTDの生徒は、完成したお花を見て嬉しそうな様子でした。

毛利先生は、「皆さんの発想力にとっても驚かされました。自然を見る力があると、情緒が穏やかになる。身近にある物、身近にあるお花を使用しても簡単にできるので、また是非挑戦していただきたいです。」とおっしゃっていました。

その後、21日、22日に三原で行われた花展で生徒の作品を飾っていただき、ご来場いただいた皆様に披露しました。



ソートン・ドノヴァン校（TD校）生徒短期留学（Day 3）

～歓迎式典と被爆体験伝承講話～

6月23日（月）、世羅町副町長金廣隆徳様、世羅町教育長早間貴之様、NPO法人世羅国際交流教育ネットワーク会長上野悟様、理事戸野法史様をお迎えして、歓迎式典を行いました。平野剛校長が、「滞在中は、広島でしか体験できない様々な活動を通じて一層日本の歴史や文化について理解を深めていただきたいと思います。何より、お互いの生徒同士、教員同士がより多くのコミュニケーションを図り、互いの友情を更に深めてもらえればと願っています。」と英語で挨拶されました。金廣副町長は、「以前マンハッタンとNASAを訪れた際に見た摩天楼やスペースシャトル格納庫の光景がいまだに思い出される。TD校の皆さんも、自然あふれる世羅の光景が一生の思い出となることを望んでいます。」と述べられました。早間教育長は、「高校生が外国に行って過ごし、その国のことを学ぶことは、とても大きな価値があります。なぜなら、自分の国とは違う文化があることが実感できるし、また、今よりも、もっと自分の国を愛するようになるでしょう。」と英語で挨拶をされました。生徒代表の生徒会副会長の森本くるみさんも、「授業体験だけでなく、平和学習として広島や大久野島を訪れ、文化祭にも参加できます。書道部の作品展示や茶道体験もあるのでぜひ楽しんでください。みなさんが学校で楽しい時間を過ごせるよう、私たちも精一杯頑張ります。」と英語で歓迎の言葉を述べました。両校で記念品交換をした後は、TD校生徒代表のAlverca Roryさんが、TD校の学校生活について、パワーポイントを用いて説明してくれました。

その後、広島平和文化センターから被爆体験伝承者の井上つぐみさんをお迎えし、本校生徒全員を対象に平和学習を行いました。井上さんは今年4月から広島大学病院に研修医として勤務される傍ら、被爆体験伝承者（日本語・英語）の認定を受け、川本省三さんの被爆証言を伝承されています。中学生の時から、平和記念資料館主催の中・高校生ピースクラブに参加され、高校では、「第18代高校生平和大使」として、国連欧州本部で核兵器の廃絶と平和な世界の実現をめざす署名を提出したり、軍縮会議で被爆者の方の言葉を引用したスピーチを行ったりするなど、海外でも活動されている方です。最近では、6月12日から19日の日程で、外務省主催の「被爆80年 証言を世界へ」という事業に参加し、イギリス、フランス、ポーランドにユース非核特使として派遣され、各都市で被爆体験講話会や現地ユースとの交流会に参加されました。

川本さんの生い立ちを話される中で、戦争直後だけでなく数十年にわたって受けてきた差別の実態から、戦争の悲惨さを知ることだけでなく、被爆者の想いをより深く感じ取ることができました。「当たり前なのに感謝する」「自分と周りの人を大切にする」という川本さんと井上さんからのメッセージも、印象深かったです。講話後は、生徒会長の白土陽麻さんが、「井上さんのお話は、被爆体験伝承者の認定を受けられ、川本省三さんの被爆証言を正確に伝承し、このことを多くの人に伝承してゆこうという、今までに経験したことのないものでした。このような活動をされている井上さんと私たち高校生は、比較的近い世代であるので、多くの刺激を受けました。私たち若い世代が、原爆の伝承をしていくことをしてゆかないと、平和に近づいていけないのではないかと思います。」と謝辞を述べました。

全校での講話ののち、3年生普通科とTD校生徒対象に、英語による被爆体験伝承講話をしていただきました。TD校生徒は、「私たちがヒロシマについて知らなかったことがあまりに多すぎる。次世代を担う井上さんや僕たち若者が平和について伝承することが大切だ。」とコメントしていました。最後に、生徒代表の續子由依さんが、「川本さんの遺志を継ごうと思った井上さんの取組に感動しました。自らも将来被爆伝承にかかわっていききたい。」と謝辞を述べました。

講話を終えた井上つぐみさんは、「世羅高校の生徒さんに日本語と英語の両方で伝承講話を行うという素敵な機会をくださりありがとうございました。とても真剣に聞いてくださる様子が印象的でした。謝辞では素敵な感想を述べてくださり、将来は被爆体験を語り継いでいきたいという生徒さんの言葉を聞いて、世羅高校の皆さんに語り継ぐことができとても良かったと思いました。アメリカからの留学生も平和の重要性を認識し、アメリカに帰ってから周りの人々に伝えると言ってくれたのが嬉しかったです。高校生たちのエネルギー溢れる姿に元気をもらいました。これからも若い世代に伝えていきたいです。」とコメントされました。

なお、この様子は、NHK広島で放送され、中国新聞に掲載されました。井上さんの伝承講話を通じて、多くの生徒たちに、平和について積極的に考えるきっかけを与えていただきました。これからも、医療に携わりながら、若者や外国の人にも影響を与える伝承者としてのご活躍を願っています。



歓迎式典で挨拶をされるTD校のピッツ先生



平野校長先生と記念品交換をされました



TD校の学校紹介をする生徒代表 Alverca Rory さん



川本省三さんの被爆体験を伝承する井上さん



生徒会長が井上さんに謝辞



流ちょうな英語で被爆体験伝承をされる井上さん



真剣に聞き入るTDからの留学生と本校3年生



将来被爆体験の伝承をしたいと述べる生徒代表謝辞

ソートン・ドノヴァン校（TD校）生徒短期留学（Day 4）

～広島市での平和学習～

6月24日（火）に、TD校と世羅高校の生徒20名が広島市での平和学習と自由散策を行いました。

平和記念公園に到着後、原爆死没者慰霊碑にて献花を行いました。激しい雨が降る中で、当時の悲劇を思い、平和への祈りを込めて共に花を捧げました。献花の後、原爆の子の像のもとに千羽鶴を奉納しました。世羅高校の全校生徒とドノヴァンの留学生が折った千羽鶴には、恒久平和に向けた決意のメッセージを添えました。

奉納を終えた後、生徒たちは平和記念資料館を見学しました。生徒たちは昨日の井上つぐみさんによる講話を踏まえながら、当時の資料に改めて向き合い、平和の尊さについて深く考えたようでした。限られた時間ではありましたが、留学生たちは少しでも多くのことを学ぼうと、真剣なまなざしを展示に向けていました。

戦後80年を迎える本年に、日本とアメリカの生徒が共に悲劇に向き合って平和について考えた時間は、世界平和への決意と希望を感じさせました。



慰霊碑への献花

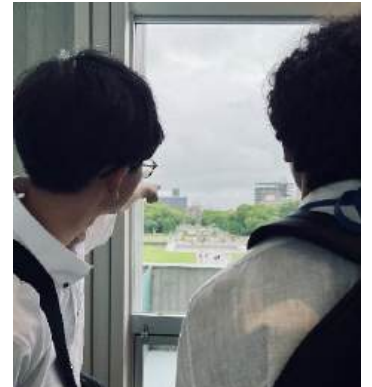


千羽鶴の奉納



平和記念資料館を
見学する TD 生徒

原爆ドームを
共に見つめる
両校生徒



今までは日本の立場のみで原爆や核兵器のことを考えていたけれど、今回 TD 校の生徒と一緒に見学したことで、他国の視点から考える機会になりました。平和記念資料館には多くの英語表記があり、海外の人にとっても平和について考えられる場所だと知って驚きました。（生徒の感想より）

平和記念資料館の来場者は今までに約 8000 万人だそうです。これは世界人口の約 100 分の 1。自分はすごく少ないと思います。だからこそ自分たちが学んで終わりではなく、それを発信して 1 人でも多くの人に知ってもらい、平和という目標に近づいていきたいです。（生徒の感想より）

午後には、3つのグループに分かれて広島市街を散策しました。広島城では、兜や刀などの日本文化を体験して、“Cool!”の声。その後は英語でコミュニケーションを取りながら、世羅高生が広島の高生を案内しました。TD校の生徒は無事にアニメグッズなどの記念品を購入でき、両校の生徒には笑顔と達成感があふれていました。日本の文化や街について英語でコミュニケーションを取る機会は、もっと英語や互いの文化を勉強したいという意欲につながったようです。

最後は平和記念公園で記念撮影を行いました。朝から降っていた雨はいつの間に止んで、晴れやかな笑顔でハイチーズ。ふと、TD生から世羅高生に手渡された電子機器の画面には、「今日が終わってしまうのが本当に寂しい」の文字。両校の生徒は「これからまだまだ楽しいことはたくさんあるよ」と笑い合っていました。少しの寂しさとたくさんの楽しい思い出を胸に、生徒たちは帰路につきました。



広島城の前で仲良く写真撮影



広島城で刀や兜を体験する TD 生徒
(特別に許可を得て写真を撮影・公開しています)



最後に全員で集合写真

TD校の生徒と散策したとき、簡単な単語や身振り手振りでも伝えることができるとわかってから、積極的に話しかけることができました。英語で話すとき、完璧な英語を話そうとする以上に、伝えようとする気持ちを持つことが大切だとわかりました。(生徒の感想より)

世界平和を実現するためには、一緒に買い物をしたり、ご飯を食べたりして、相手がどんな人なのかを知ること必要だと思いました。(生徒の感想より)

出発前はうまく行動できるか不安でしたが、新しい発見があったり、英語を上手に話せない悔しさを感じたりして、思った以上に楽しかったです。参加して良かったです。(生徒の感想より)

ソートン・ドノヴァン校（TD校）生徒短期留学（Day 5）

～部活動体験～

6月25日（水）、午前中4時間は各クラスで授業に出席し、午後は文化祭の準備を一緒にしました。そして、放課後に部活動体験として、2人がサッカー部に、1人がダンス部にそれぞれ参加しました。

サッカー部では、シュート練習や試合形式の練習に取り組み、一緒に汗を流しました。留学生の一人は、「サッカーは昼休憩に遊ぶ程度で、放課後に集まってすることはなく、楽しかった。」と言っていました。日本の生徒は、「サッカーには国境がなく、だれでも一緒に楽しめることが分かった。」と感想を述べてくれました。

ダンス部では、日本の生徒が一つの振り付けを教えて、音楽に合わせて一緒に踊って、また次の振り付けで踊る、を繰り返しました。留学生は、「K-POPのダンスを踊ったことがなく、楽しかった。」と言っていました。日本の生徒は、「振り付けをすぐに覚えて、踊りが上手だった。」と感想を述べてくれました。また、最後に、留学生が好きなバレエを披露してくれる一幕があり、拍手が沸き起こりました。

短い時間でしたが、互いにすぐに打ち解けて、英語でコミュニケーションを取り合っている姿が印象的でした。



いざ、シュート！！



鏡の前で、一緒にダンス！



試合形式の練習では、とってもフェアプレー！



得意のバレエを披露。くるっと一回転！



ソートン・ドノヴァン校（TD校）生徒短期留学（Day 6）

～アヲハタ ジャムづくり体験～

6月26日（木）の大久野島での平和学習後、三原の天吉で昼食をとり、忠海港の近くにあるアヲハタジャムデッキに向かいました。

広島県竹原市に本社を置くアヲハタ株式会社のジャムについて説明を受けたあと、エプロンに着替えてジャムづくり体験を行いました。たっぷりのいちごを鍋に入れ、火をつけて砂糖を溶かしながら煮込みました。強火にしていちごの中の空気を抜いたり、糖度計で糖度を測ったりしながらおいしくなるように願いを込めて作りました。出来上がったジャムを瓶詰する際には瓶にたっぷりのジャムを注ぎ入れてふたを閉め、瓶を上下に振り、一瞬開けて空気の抜ける音を確認してからしっかりとふたを閉めました。

ジャムの試食をさせていただいた際には生徒たちはアメリカのジャムとの違いを感じながらとてもおいしそうに食べていました。工場の見学もさせていただき、普段食べているジャムがどのようにつくられているかを学ぶことができました。



ソートン・ドノヴァン校（TD校）生徒短期留学（Day 6）

～大久野島での平和学習～

6月26日（木）にTD校生徒と世羅高校の生徒4名が大久野島での平和学習と自由散策を行いました。

忠海港で戦争の歴史を伝える山内正之さんと合流し、フェリーで大久野島へ向かいました。大久野島に到着後、毒ガス工場跡地前で戦争中に作られていた毒ガスを使用した兵器についての説明を聞きました。その後、毒ガス資料館に移動し、日本が毒ガスを製造・使用し、大久野島は地図から消されていたことについてご講演いただきました。その後、慰霊碑や当時の建物が残っている場所をめぐり、大久野島とうさぎとの関係についてもお話を伺いました。現在、大久野島には多くのうさぎが生息していますが、平和学習中、生徒はうさぎを気にすることなく、集中して山内さんのお話を聞きました。

広島市内での平和学習や井上つぐみさんの講演などを通して広島での戦争被害について知り、平和について考えていた生徒たちでしたが、講演・案内を終えて「広島での被害の戦争だけでなく、今日の平和学習を通して日本が加害者の立場でもあった事実を知り、平和について改めて深く考える機会になった。」と語りました。

被害者と加害者、両方の立場から、戦争で起こった悲劇に向き合い、平和について考えた時間は平和への希望を感じさせました。



山内さんの説明に真剣に耳を傾ける生徒たち



瀬戸内海の美しさを眺めると、今現在の平和な大久野島の様子と対照的に感じました。

ソートン・ドノヴァン校（TD校）生徒短期留学（Day 7）

～世羅高校文化祭 1 日目～

6月27日（金）、世羅高等学校では文化祭の1日目が開催されました。

この日は各クラスによるステージ発表が行われ、生徒たちはダンスや歌、劇、映像作品などを通して、それぞれのクラスの個性や魅力を存分に発揮しました。

今回は、TD校の生徒たちも参加し、世羅高校の生徒とともに文化祭を盛り上げてくれました。

★TD校生のステージ参加の様子★

イスラエルくん（1年1組）は、今話題の曲「わたしの一番かわいいところ」にあわせてクラスメートと一緒にダンスを披露。発表前には一生懸命に振り付けの確認をする姿も見られ、本番では息の合ったパフォーマンスを見せてくれました。

ケリーさん（1年3組）は、「MUSICステーション」の再現ステージに参加。B'zの楽曲を披露する生徒とともにギター演奏を担当し、会場を盛り上げました。ノリノリの演奏で、観客からも大きな拍手が送られました。

ローリーくん（2年4組）は、2日目に予定されている模擬店の宣伝ステージに登場。かわいらしいチーズの被り物を身につけ、「おいしいよ！」と日本語で呼びかける場面では、観客から歓声が上がりました。

TD校の生徒たちは、世羅高校の一員としてクラスに溶け込み、文化祭を共に楽しんでくれました。例年のプログラムにはなかった国際交流の要素が加わり、お互いにとって貴重で印象深い体験となりました。

TD校の皆さんにとっても、大変満足のいく1日となったようです。



ダンスを踊る様子



ギターをもって演奏する姿



2日目の広告の様子

ソートン・ドノヴァン校（TD校）生徒短期留学（Day 8）

～文化祭2日目と Farewell Party～

6月28日（土）、文化祭の2日目が開催されました。

この日は、各クラスによる模擬店やアトラクションが校内各所に設置され、来場者を楽しませました。

今回もTD校の生徒たちは、ホストファミリーの生徒と一緒に模擬店を巡り、日本の文化祭を満喫してくれました。焼き鳥などの屋台グルメをはじめ、お化け屋敷や謎解きゲームなど、日本独特の文化祭ならではの企画を体験し、笑顔あふれるひとときを過ごしていました。

★TD校生との送別パーティー★

文化祭終了後は、町内のレストラン「T i n y」にて、送別パーティーが開催されました。

ホストファミリーとともにテーブルを囲みながら、楽しく歓談しつつ別れを惜しむひとときとなりました。

宴の途中には、日本の伝統的な娯楽の一つである「二人羽織」も披露され、会場は大いに盛り上がりました。

パーティーの終盤には、ホストファミリーからの挨拶、そして、TD校の生徒から感動的な挨拶がありました。

「ずっと姉から聞いていた、広島という場所、そして世羅という場所に来ることができて本当に良かったです。これから、私たちが、広島とNY、そして日本とアメリカをつなぐ架け橋になればと思います。」

この言葉には、会場にいた全員の心が温くなりました。

2日間にわたる文化祭を通して、TD校と世羅高校の生徒たちは深い友情と国際的な絆を育むことができました。今回の交流が、これからの両校にとってかけがえのない思い出となることを願っています。

『文化祭2日目』



チーズの被り物をする生徒



模擬店の看板での写真

『T i n y での送別会』



学校からのお土産贈呈



二人羽織で食べる蕎麦



学校からのお土産贈呈

ソートン・ドノヴァン校（TD校）生徒短期留学（Day 9）

～食品製造授業 採蜜体験～

7月1日（水）、TD校の生徒と3年農業経営科6次産業類型の生徒10名が交流授業をし、蜂蜜を通して6次産業について理解してもらう授業を行いました。

6次産業とは、農林漁業などの1次産業が、食品の加工・製造などの2次産業や、販売・サービスなどの3次産業にも取り組み、新たな付加価値を生み出すことで、具体的には、生産者が自ら加工品を開発・販売することです。農業経営科では、果樹栽培で使用する交配用ミツバチの飼育を学ぶ中で、副産物である蜂蜜を採取し、商品開発、販売を行っています。実際に採蜜を体験してもらい、どのように蜂蜜を採取するか生徒の説明を受けながら挑戦してもらいました。採蜜した蜂蜜を瓶詰加工し、ホームステイへのお土産にしました。試食を通して、採蜜場所や天候で味が違うことも知ってもらうことができました。さらに、蜂蜜を使用した加工品の試食をしてもらい、6次産業について理解を深めてもらいました。



巣枠の蜜蓋を包丁で切り取ります。



遠心分離機で蜂蜜を巣枠から飛び出させます。



蜂蜜の試食はとても美味しいと感動していました。瓶詰め体験し、お土産にしました。



はちみつケーキの試食も美味しいと皆さんから大好評でした。

ソートン・ドノヴァン校（TD校）生徒短期留学（Day10）

～広島空港から米国へ～

7月2日（水）早朝、TD校からの生徒3名と引率教員1名が広島空港から帰国の途につきました。6月19日夜に到着して以来、TD校の生徒たちは、それぞれのホストファミリーやご親戚、お友達、本校生徒との交流を楽しんでおり、「また来年も来るよ」「ホストファミリーがとってもよくしてくれたよ」と言って旅立つ生徒もいました。また、本日は、TD校元校長のフレミング先生とお孫さんのケリーさんも入れ替わりに世羅入りされました。

この2週間、ホストファミリーの皆様はもちろん、NPO世羅国際交流教育ネットワークの方々、交流事業に関わってくださったすべての方々に感謝を申し上げます。



昨年度に引き続き、ホストファミリーをしていただいた下村さん、最後まで名残惜しそうでした。Roryは「また世羅高に来るよ」と言ってくれました。



浅井さんは、数年前もTD校の生徒のホストファミリーをしてくださったご縁もあり、2回目の受け入れをしてくださいました。ご親戚の方とも1日一緒に過ごし、Israelは様々な人たちと交流をしたようです。



小川さんは、今回希望してホストファミリーをする予定だった小西さんも交えて、交流をしてくださいました。昨年度世羅高校に来られたメイソンさんの娘さんである Kellie は、いつも二人の生徒と一緒にでした。



フレミング元校長先生とピッツ先生のおかげで、世羅高校と TD 校の交流が平成 22 年から続いています。世羅高校との今後の交流についても、両校での話し合いを経て、オンライン交流も含め、今後の内容を決めています。今年度も 3 月に、世羅高校から TD 校へ生徒を派遣します。毎年ブラッシュアップした研修となるように努めてまいります。